（ワークショップの様子）

◇現地の小学校や高校でのワークショップの様子

◇現地の大学や演劇学校でのワークショップの様子

◇能面を日本から多数（数十面）持参し、能面展などを開催することも可能です。

参

【海外公演のこれまでの実績】

当財団主催の海外公演は、2010 年からスタートした。2011 年ブルガリア公演（ソフィア市/2 公演)、2012 年ブルガリア公演（ソフィア市・プロブディフ市/2 公演）ならびにスロバキア公演（ブラスチラバ市、ニトラ市/2 公演)、2013 年スロバキア公演（ブラスチラバ市、コシチェ市/2 公演)、2014 年ブルガリア WS（ソフィア市)、2015 年ブルガリア公演（ソフィア市、カザンラック市/2 公演)、2016 年ルーマニア公演（ブカレスト市、シビウ市/3 公演）ブルガリア公演（ルセ市/1 公演)、2017 年ルーマニア公演（シビウ市/2 公演)、フィンランド公演（クオピオ市/1 公演)、2017 年フランス公演（ナント市/3 公演、ヴィルファバール/1 公演)、2018 年ルーマニア公演（シビウ市/4 公演、ブカレスト市/1 公演)、2019 年ルーマニア公演（シビウ市/2 公演)、2019 年ブルガリア公演（スタラザゴラ市/2 公演、プロブディフ市/2 公演、ソフィア市/1 公演)、北マケドニア公演（スコピエ市/1 公演)、アルバニア公演（ティラナ市/1 公演）の 44 公演を 9 年間に実施してきた。

■平成 22 年 10 月　　能楽ワークショップ　於：ソフィア大学

ソフィア大学の学生を対象に約６０名に能のワークショップを開催。

■平成 23 年 11 月　　ブルガリアで１９８０年以来２度目の能の公演を実施

［在ブルガリア日本国大使館より招聘］

①新作能「水の輪」公演　　於：ソフィア市立ソフィア劇場

　ブルガリアの子ども達 30 名が「水鳥」役になってアイ狂言に出演

②能「羽衣」公演　　於：ソフィア市立ソフィア劇場

■平成 24 年７月　　ブルガリアの２都市で能楽ワークショップを開催

［在ブルガリア日本国大使館より招聘］

①ソフィア市　　ソフィア大学の学生　約５０名を対象

②プロブディフ市　国立芸能アカデミーの関係者　約６０名を対象

■平成 24 年８月　　ブルガリアの２都市で能楽公演を実施

［在ブルガリア日本国大使館より招聘］

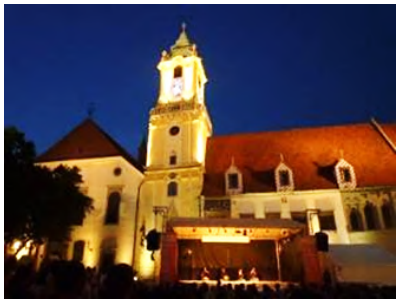
①ソフィア市アートセンター　　新作能「水の輪」

②プロブディフ市　古代ローマ劇場　　能「葵上」

■平成 24 年８月　スロバキア共和国ニトラ市　シティパーク野外劇場

［在スロバキア共和国日本国大使館より招聘］

■平成 24 年 8 月　スロバキア共和国ブラスチラバ市大使館前広場特設ステージ
［在スロバキア共和国日本国大使館より招聘］



■平成 25 年 8 月　　日本スロバキア外交関係樹立２０周年特別能楽公演
［在スロバキア共和国日本国大使館より招聘］
①ブラスチラバ城特設ステージ
②欧州文化首都　コシツェ市　ヒストリックホール

■平成 26 年 10 月　ソフィア大学の招聘により能についての講義、ならびにワークショップを実施.国立芸能アカデミーの関係者に向けてのワークショップも開催。　約 60 名のブルガリア人が参加。

■平成 27 年 10 月　ブルガリアで 1 年を通して最も大きなイベントである「日本文化月間」のオープニングに能楽公演を実施。現地のブルガリア人 10 人が出演し大きな話題を呼ぶ。
［在ブルガリア日本国大使館より招聘］
①ブルガリア国立オペラ劇場　ソフィア市
②カサーナル劇場　　カザンラク市

■平成 28 年 6 月　シビウ国際演劇祭に能として初めて招聘を受け、能の公演を実施。大喝采を浴びる。ルーマニア・ブカレスト公演でも中に入れない観客が外で列をなしたり、受付におしかけるなど大きな反響を呼ぶ。在ルーマニア日本国大使石井喜三郎氏が直接プレスリリースを行って下さったこともあり、現地のメディアでも多数取り上げられる。同時に、現地の小学校、演劇学校などでワークショップを実施し、文化交流を実施した。ブルガリア・ルセ市のオペラ劇場でもルセで初めての能の公演を実施し、成功をおさめた。

［在ルーマニア日本国大使館、シビウ国際演劇祭、在ブルガリア日本国大使館から招聘］

■平成 29 年 6 月　シビウ国際演劇祭に能として 2 度目の参加。多面的・多角的に能の魅力を伝え、現地から高い評価を得る。フィンランドのクオピオ・ダンスフェスティバルにも能として初参加をし、大成功に終わり、総監督のヨルマ・クオティアラ氏より再演を乞われた。

［在ルーマニア日本国大使館、ｼﾋﾞｳ国際演劇祭、クオピオ・ダンスフェスティバルより招聘］

■平成 29 年 10 月　大坂城とフランス・ナント市のブルターニュ大公城が友好城郭提携を行うことになり、その調印式ならびに記念式典で能を上演。両国間の文化を通した相互理解に貢献した。ブルターニュ大公城、ナポレオンも愛した格式あるナントのオペラ座で能の公演を実施。

［ブルターニュ大公城/ナント市歴史博物館、ナント市より招聘］

■平成 30 年 6 月　シビウ国際演劇祭総監督のキリアック氏からの提案で、800 年前の 13 世紀につくられたチスナディオラ砦要塞教会の兵士たちの慰霊碑の前で「魂の鎮魂のための芸能」として能「敦盛」を上演。演劇祭全体の最終公演として能「土蜘蛛」を薪能形式で実施。ブカレストでも 2 度目の能の公演「小鍛冶」を上演し、大喝采をあびる。

[シビウ国際演劇祭ならびに在ルーマニア日本国大使館より招聘]

■平成 31 年 6 月　シビウ国際演劇祭から連続 4 度目の招聘を受け、ルルホールで能「鉄輪」、ハ―ベルマン広場で能「巻絹」を上演。4 度目の演劇祭出演となり、能についての周知と演劇祭における能楽ファンが育成されていることを実感できる公演となった。ハ―ベルマン広場では、ベビーカーの親子連れから、小学生、高齢者まで、様々な年齢や性別、国籍の方にご鑑賞頂くことができた。
[シビウ国際演劇祭・在ルーマニア日本大使館より招聘]

■平成 31 年 9 月~10 月　日本とブルガリアの友好関係 110 周年、外交取極樹立 80 周年、外交取極再開 50 周年の「３つの周年」が重なる特別な事業として、ソフィア市の国立劇場で能「鉄輪」ならびにブルガリア人俳優がシテとツレを勤める能「土蜘蛛」公演を盛会裡に実施した。また、ブルガリア第二の都市・プロブディフ市が欧州文化首都に選定され、そのメインイベントとして 2 世紀に建設された古代ローマ劇場で能「羽衣」ならびにブルガリア人俳優がシテとツレを勤める能「土蜘蛛」公演、さらにギリシャ神話を題材にして、新作曳「オルフェウス」を現地の人々と共同制作し、ブル

ガリア人の子ども達約２０人がワークショップで衣装を手作りし、能の公演に出演した。バルカンは「連なる山々」という意味を持つため、SDGs の 15「陸の豊かさを守る」ための作品として制作し、自然を賛歌し、時代へと美しい自然を継承することを目指した。

さらに、日本と北マケドニアが外交関係樹立 25 周年の節目であったため、北マケドニア国立劇場でも能「羽衣」、「土蜘蛛」の公演を実施し、アルバニアの芸術祭からも招聘を受け、北マケドニアならびにアルバニアでの初めての能の公演を実施した。

[在ブルガリア日本国大使館、欧州文化首都プロブディフ２０１９事務局、在マケドニア日本国大使館、在アルバニア日本国大使館、TAKIMET MUZIKORE 音楽祭事務局より招聘]